第四百二十四回　青葉会　句会報

令和三年八月二十六日（木）　WEB句会

選　者　川口孤舟

投句・選句　今井紀久男　柿崎忠彦　川口孤舟　久米五郎太　小早健介　在間千恵　佐藤ただしげ
朱牟田恵洲　土谷堂哉　中川雅夫　長谷見びん　福島正明　古田昇　星田啓子　宮内規雄
山崎亜也　山田けい子　山内天牛　渡邊盛雄

選句のみ　安部眞希子　伊賀山そらお　重枝孝岳　庄司龍平　高橋敏郎　豊田ゆたか　橋口隆
早川允章

《互選句》○は選者の特選　◎は孤舟選者の選

十点　墓洗ひ今日は愚痴をも聞かせけり　千恵　（そ・紀・忠・○健・恵・敏・隆・允・規・盛）
昼顔や島に静かな鉄工所　びん　（眞・五・恵・堂・昇・正・啓・規・け・天）

七点　◎爽やかに邪気を祓うや巫女の鈴　正明　（紀・孤・龍・た・敏・允・天）
◎掃苔や墓誌に並びし洗礼名　亜也　（眞・紀・孤・千・隆・允・け）

六点　野良猫に飼い主が出来百日紅　忠彦　（眞・紀・五・○正・け・盛）
縦長の赤子のあくび昼寝覚　孤舟　（眞・五・孝・○恵・堂・け）
片仮名のヒロシマナガサキ八月来（く）　恵洲　（○眞・○敏・正・昇・啓・規）
甚平着て煩悩を断つ八十路かな　盛雄　（紀・恵・敏・ゆ・雅・天）

五点　せがまれて対に仕立つる茄子の牛　堂哉　（紀・健・た・び・天）
◎とんぼ来て抜ける空あり夕暮れぬ　啓子　（紀・孤・五・孝・亜）
◎友逝きて星の多き夜文月かな　けい子　（紀・孤・五・健・啓）
◎空室のなき病棟や居待月　盛雄　（紀・忠・孤・昇・正）

四点　きちきちの不器用に跳ぶ散歩道　紀久男　（健・恵・規・盛）
生くるとは燃ゆることなり恋蛍　孤舟　（健・堂・昇・盛）
友の家更地にかはる秋はじめ　五郎太　（眞・紀・千・堂）
包丁の研ぎ水にごる残暑かな　仝　（紀・昇・亜・○啓）
落ち蝉やさわれば怒って飛びにけり　ただしげ　（紀・隆・雅・規）
客は蜂主は満開百日紅　堂哉　（健・た・孝・ゆ）
注射医の吐息洩れたる夏の午後　びん　（紀・忠・堂・啓）
◎コロナ禍や小さく灯す大文字　昇　（そ・孤・雅・正）
◎コロナ禍に遠くなりたるビアホール　仝　（紀・孤・た・龍）
水撥ねてチッと舌打ち蝉跳びぬ　啓子　（そ・紀・恵・○堂）
朝夕に木槿の白き屍（かばね）掃く　仝　（○紀・孝・び・亜）
しんかんと夜明けの空や広島忌　規雄　（紀・○五・允・天）
目で合図無言で踊る今年かな　けい子　（眞・紀・千・亜）

慈雨来たる庭の草木は背筋伸ぶ　天牛（紀・千・ゆ・規）
職退きてはや二十年新松子　盛雄（紀・○忠・び・允）

三点

殺生のことはさておき毛虫焼く　孤舟（紀・び・け）
◎墓詣り沼辺に起こる千の風　五郎太（紀・孤・孝）
運動会大器と期待の爺い馬鹿　健介（紀・天・盛）
「中づり」で世相を知りし暑き日も　千恵（紀・た・亜）
サイゴンのデジヤブを見たり溽暑かな　仝（紀・正・○け）
初蝉や短きいのち鳴けや鳴け　堂哉（○そ・た・隆）
誠無き首相の式辞原爆忌　仝（紀・○昇・雅）
浮ける世を悲しみ鳴くや蝉時雨　雅夫（孝・ゆ・正）
◎郷愁は浅間嶺去らぬ夏の雲　びん（紀・孤・恵）
◎聞こえ来る賢治の詩や星月夜　昇（紀・○孤・び）
蕎麦の花隣りで供す手打ちかな　亜也（紀・敏・ゆ）
秋雨や野面の石垣苔の濃く　仝（そ・紀・千）
愛犬と妻と三人西瓜喰ふ　天牛（紀・忠・盛）
容赦なく地軸を揺らす秋出水　盛雄（そ・紀・允）

二点

猿之助の六役「加賀見山再岩藤」　紀久男（敏・雅）
主役食ひ巳之助受ける夏芝居　忠彦（紀・亜）
辛いより甘い酒好き小梅干し　孤舟（健・啓）
良寛に倣ふ水茎天の川　五郎太（紀・○龍）
杜氏たち違ひを競ひ新酒まつ　千恵（紀・龍）
出前さす鰻に少し気分上ぐ　恵洲（紀・堂）
女坂といえど喘ぐや秋暑く　雅夫（紀・龍）
暗き梅雨天いさめるや人の業　びん（紀・○盛）
思ふこと多き五輪や遠花火　正明（天・龍）
新米で作るおにぎり皆笑顔　仝（紀・昇）
タリバンのカブール入りや敗戦日　昇（五・隆）
流星と見ゆれば夜間飛行の灯　啓子（孤・雅）
◎熱気球抱くが如くの暑さかな　規雄（紀・ゆ）
小雨のなか山鳩鳴くよ終戦日　亜也（紀・び）
破裂せぬ檸檬ながめて鬱屈す　けい子（紀・敏）
秋螢今日も手酌の一人かな

一点

秋暑し収まり見えぬ感染者　紀久男（隆）
洪水に荒れるお盆や南無阿弥陀仏　忠彦（紀）
アギトスは動くの意なり処暑の風　五郎太（紀）
蛍火や戀といふ字を解体す　孤舟（孝）
オリンピアン腕のタトウに蒸暑し　千恵（紀）
五輪終え若人の夏甲子園　ただしげ（紀）
日は落ちて樹々のこづえに秋立ちぬ　仝（紀）

風雨去り真夏日戻る日差しかな　仝（紀）
大驟雨止むを待ち兼ね蝉再び　恵洲（千）
髪洗ふ明日は夢見しヨーロッパ　堂哉（龍）
オンライン無情悲しむ蝉時雨　雅夫（紀）
金亀子（こがねむし）緑を食うな人の世も　仝（紀）
長旅や空蝉ふたつひとつ葉に　びん（け）
コロナ禍や増えし自転車秋たちぬ　啓子（紀）
横浜に白き雨降る原爆忌　規雄（忠）
目立つ場所に並ぶ万願寺唐辛子　天牛（紀）

【句評】

十点句

墓洗ひ今日は愚痴をも聞かせけり　千恵

忠彦さん・・・私は毎日仏壇に愚痴を言って祈っております。
健介さん・・・仲睦まじかった間柄が滲み出ている秀句です。
恵洲さん・・・愚痴を聞かせる相手は、墓所に眠る故人と拝察。気持ちが分かります。
隆さん・・・・話し相手は必ずしも人に限らず、墓石もそうですね。墓参りで元気になると聞きます。私だけでしょうか。

昼顔や島に静かな鉄工所　びん

恵洲さん・・・あまり、仕事が無さそうな島の鉄工所の佇まいに昼顔がよく合います。
堂哉さん・・・母の故郷に近い尾道の向島を思い出しました。工員さんは昼顔の見える木陰で昼御飯ですかね。
天牛さん・・・鉄工所の社長していた関係で静かさが身にしみます。簡単ですが昼顔が効いています。

七点句

爽やかに邪気を祓うや巫女の鈴　正明

孤舟さん・・・厳かな巫女舞の鈴の音に、身も心も洗われる感じがする。
ただしげさん・・鈴の音を思い出し、なんとなく爽やかな気分になった。
龍平さん・・我が家では今夏から明珍火箸の風鈴を設置した。妙なる音色はこの世の寶。

掃苔や墓誌に並びし洗礼名　亜也

孤舟さん・・・人は亡くなれば、国境や宗教の隔たりは無くなる。
千恵さん・・・洗礼受けてももちろん家族の一員には変わりないから一緒ですよね。
隆さん・・・・墓誌の名には知っている人も知らない人もある。これらの人の命をいただいて私が居る。

六点句

野良猫に飼い主が出来百日紅　忠彦

正明さん・・・公園の揺れる百日紅の下、猫が一匹のんびりしている昼下がり、あの野良猫に飼い主が出来たんだね。良かったね。

縦長の赤子のあくび昼寝覚　　孤舟

恵洲さん・・・赤ちゃんのかわいい欠伸を縦長と見て表現した確かな写生に感心。愛情も感じられる。

堂哉さん・・・確かに縦長です！

片仮名のヒロシマナガサキ八月来（く）　　恵洲

眞希子さん・・ヒロシマナガサキのこの表記はこの都市名が世界共通語になっていることのあらわれと思う。地球上の一人ひとりは核廃絶を願っている。しかし国家となると足並みが揃わない。被爆国でありながら日本は・・。一個人として何が出来るか？この一句から課題を与えられました。

敏郎さん・・・同感‼　八月の広島・長崎はなぜか片仮名が似つかわしい。

甚平着て煩悩を断つ八十路かな　　盛雄

恵洲さん・・・八十路にしてなお、断つべき煩悩があるところに共感。

ゆたかさん・・八十路にかかってもなかなか煩悩を断つことはできません。甚平を着てみようかなと思います

五点句

せがまれて対に仕立つる茄子の牛　　堂哉

ただしげさん・・奥様にせがまれてお盆のお供えの牛を二個つくることになり、ほのぼのとしたものを感じる。

びんさん・・・遠い郷愁のように素朴なお盆の雰囲気が良くでています。

とんぼ来て抜ける空あり夕暮れぬ　　啓子

孤舟さん・・・夕やけこやけの/赤とんぼ/おわれてみたのは/いつの日か

友逝きて星の多き夜文月かな　　けい子

孤舟さん・・・最近友人が次々に星になってしまい、淋しい限りだ。

空室のなき病棟や居待月　　盛雄

忠彦さん・・・出が遅く待っていた秋の月に、空室が出来るのを祈る光景でしょうか。

孤舟さん・・・十五夜より一時間余りも遅れて上がる十八夜の月。早く入院させてやれないのがもどかしい。

四点句

きちきちの不器用に跳ぶ散歩道　　紀久男

恵洲さん・・・不器用と言われて、キチキチバッタは不本意と思いますが、そういえばそうかなと思わせます。

友の家更地にかはる秋はじめ　　五郎太

堂哉さん・・・亡くなったのでしょうか？マンションに越したのでしょうか？

包丁の研ぎ水にごる残暑かな　　五郎太

啓子さん・・・包丁の研ぎ水は濁るものですが、残暑という季語を置かれで“にごる”が生きているように思います。西日の当たる夏の終わりの暑い台所の様は日常の生活から引き出された日本の原風景を見るよう。

落ち蝉やさわれば怒って飛びにけり　　ただしげ

隆さん・・・・擬人法に嫌みがない。心が通う時である。

客は蜂主は満開百日紅　　堂哉

ゆたかさん・・客が蜂　主が百日紅という見立てがいいです

注射医の吐息洩れたる夏の午後　　びん

忠彦さん・・・ワクチンを打つ方も打たれる方も「ため息」です。
堂哉さん・・・政府の不手際もあり、現場の医療従事者の方々のご苦労には頭が下がります。

コロナ禍や小さく灯す大文字　　昇

孤舟さん・・・規模は縮小しても、京都の伝統行事は守ってゆきたい。

コロナ禍に遠くなりたるビアホール　　昇

孤舟さん・・・ビアホールの再開が待ち遠しい。
ただしげさん・・納得して我慢している気持ちをうまく表現している。
龍平さん・・・ビアホール行きは何時のことになりますやら。2025 年まで待てって・・。

水撥ねてチッと舌打ち蝉跳びぬ　　啓子

恵洲さん・・・蝉の飛び立つときのチッという音を、舌打ちと聞いた感性が面白い。
堂哉さん・・・私も庭の水やりの時、しばしば体験しています。ビックリして発する一鳴きを舌打ちとは！

朝夕に木槿の白き屍（かばね）掃く　　啓子

孝さん・・・一日でしぼんでしまう木槿の花を白い屍と表現して人生の無情を指摘して鋭い。
亜也さん・・・林黛玉が落花を掃き集めて葬る紅楼夢の場面を思い出しました。
紀久男・・・「屍」の措辞が見事。

しんかんと夜明けの空や広島忌　　規雄

五郎太さん・・その朝は空に米軍機が現れ、そして生地獄がきた。
天牛さん・・・被爆した小畑さんもとうとう亡くなりました。

生くるとは燃ゆることなり恋蛍　　孤舟

堂哉さん・・・ロマンチック！こんな時代もあったかな？
盛雄さん・・・下五の恋蛍がいいですな。楽しい作品。

慈雨来たる庭の草木は背筋伸ぶ　　天牛

千恵さん・・・暑さにうなだれていた草木が雨を受けて上向く様子の擬人化がいいですね。
ゆたかさん・・背筋伸ぶの表現がいいです

職退きてはや二十年新松子　　盛雄

忠彦さん・・・「新松子」が新鮮に感じられます。老いた松でも今年新松子が出来る。元気付けられます。

三点句

墓詣り沼辺に起こる千の風　　五郎太

孤舟さん・・・墓域には多くの「魂」が漂っている。

運動会大器と期待の爺い馬鹿　　健介

盛雄さん・・・足の速い孫のことでしょうか。

「中づり」で世相を知りし暑き日も　　千恵

ただしげさん・・嘗て通勤時、中づり広告でその時の話題を知った時代を懐かしく思った。
亜也さん・・・・文春・新潮はやめるとか…困ります。

サイゴンのデジヤブを見たり溽暑かな　　千恵

けい子さん・・コロナなど楽しくない月。フランス統治下のサイゴンの世界へ行きたいです。

初蝉や短きいのち鳴けや鳴け　　堂哉

隆さん・・・・蝉に声をかける。人蝉一体。

誠無き首相の式辞原爆忌　　堂哉

昇さん・・・・読み飛ばしや読み違いとは、一連の政治姿勢を象徴しています。慰霊碑の「過ちは繰返しませぬから」の言葉が皮肉に聞こえます。

浮ける世を悲しみ鳴くや蝉時雨　　雅夫

ゆたかさん・・蝉の一生は、短くてはかないものですね。人の世もまたはかないものです。

郷愁は浅間嶺去らぬ夏の雲　　びん

孤舟さん・・・青空に沸き立つ大きな雲が浅間山にかかる景色は、昔と全く変わらず郷愁を誘う。

恵洲さん・・・落葉松の林を出でて・・・の白秋の詩を思い出します。（浅間嶺にけぶり立つ見つ・・だったか。）懐かしい。

聞こえ来る賢治の詩や星月夜　　昇

孤舟さん・・・「銀河鉄道の夜」は未定稿のまま残された。

びんさん・・・はい、確かに聞こえました・・大竹しのぶの場違いなほど単調なソロが突然五輪閉会式の大舞台に。宮沢賢治作詩・作曲の「星めぐりの歌」〈赤い目玉のさそり・広げた鷲の翼　アンドロメダの雲は・魚の口のかたち・・・〉　多様性を謳い上げた五輪 2020 は、この歌の終わりを待つように聖火が消え星夜となりました。

本句は五輪とは無縁の作ともとれますが、それも佳いでしょう。

蕎麦の花隣りで供す手打ちかな　　亜也

ゆたかさん・・新鮮なそば粉の手打ち蕎麦はさぞ香りが高いことでしょう。いちど食べてみたいです。

愛犬と妻と三人西瓜喰ふ　　天牛

忠彦さん・・・人間扱いされる犬は幸せ者です。

盛雄さん・・・一番楽しかったのは〝愛犬〟でしょう。

二点

辛いより甘い酒好き小梅干し　　忠彦

亜也さん・・・ちょっとだけ同感。

杜氏たち違ひを競ひ新酒まつ　　五郎太

龍平さん・・・お酒はコロナ感染阻止の特効薬と言う研究結果が出たと今年長崎大学が発表した。呑兵衛にコロナ禍無しといきたい。

思ふこと多き五輪や遠花火　　びん

盛雄さん・・・共感を呼びます。国にも個人にも判断ミスは有る。季語の遠花火が良かった。

流星と見ゆれば夜間飛行の灯　　昇

五郎太さん・・8月は流星群がよく見えるはずだが、見えたのは飛行機の灯。

隆さん・・・・鹿児島の実家の空に東南アジアと北米を結ぶ航路がある。懐かしい。流星は速く、そのため「流星の空ゆく辺り夜間飛行」でも。

熱気球抱くが如くの暑さかな　　啓子

孤舟さん・・・火傷しそうな暑さだ。

小雨のなか山鳩鳴くよ終戦日　　規雄

ゆたかさん・・鳩は平和の使いですね

一点

秋暑し収まり見えぬ感染者　　紀久男

隆さん・・・・人類とウィルスの戦いは永遠。

大驟雨止むを待ち兼ね蝉再び　恵洲

千恵さん・・・確かに雨が止むやいなや蝉って鳴きだしますね、うるさいくらいに。
「待ち兼ね」がいいですね。

横浜に白き雨降る原爆忌　規雄

忠彦さん・・・原爆投下後の広島に黒い雨が降ったとのこと。「白き雨」が印象的です。

次回青葉会

令和三年九月二十二日（水）　WEB句会

※この九月末まで緊急事態宣言が延長された為、WEB句会に切り替えました。

当季雑詠5句までの投句を受け付けます。締め切りは九月二十日（月）中。

今井宛FAXか郵送、　星田宛メール（keiko-reve@c07.itscom.net）にて受付致します。

令和三年八月　青葉会報

一、新型コロナ禍終息せず、不要不急の外出控えるよう政府からの外出自粛要請が延長されましたのでWEB句会にしました。新本社ビルをまだ見ておられない会員からは残念との声が届いておりますが、三井物産ビルのように日経の「ニューオフィス賞」を貰った訳ではなく極く平凡なオフィスビルと思います。今回はご覧のように19名81句の投句あり　千恵さん、びんさんが高得点でした。

二、関係者近詠

ワクチンへ押す車椅子穂麦風　眞希子
手を合はせ〃いただきます〃と夫涼し　仝
伽羅蕗を煮継ぎて実家の嫁娘　仝
船波に揺るる胡桃の花の屑　弘子
初夏を引きてはどうと寄する波　仝
富士見ゆる側を念押す夏の旅　仝
山法師の花下や一冊読み了へる　仝
歯もさへ疼くワクチン受けし明易よ　仝

蟻の列踏みたる夜の蟻走感　陽亮
親不孝実家の水に中りけり　仝
独り膳小鉢に崩す冷奴　仝
ミイラ取りミイラになりて熱中症　仝
走馬燈カバヤキャラメル紙縒籤　仝
雨に打たれ川鵜一羽のみじろがず　紀久男
吟行の意欲殺ぎをる走り梅雨　仝
梅雨激し病む師気遣ふ井の頭　仝
片岡秀太郎を悼む
まったりした女形弟子をば育てつも　仝

盆僧は忙しなきひとバイク音　盛雄
五十年木の家に棲み冷奴　仝
祭なき宵の大阪鱧の皮　仝

接種終へ涼しさうなる厨風　紀久男
ぐい呑みで伊丹御免酒冷奴　仝
菩提寺の前住職と冷酒酌む　仝

――「森の座」（横澤放川選）9月号

母いつも人扇ぎ居し団扇かな　健介
三十年のおんぼろ扇子我が分身　仝
風鈴や閑居の午後の子守歌　仝

――「きさらぎ句会」8月

秋立つや項くすぐり風の過ぎ　　允章
海の紺深まってきし今朝の秋　　仝
処暑今宵常温で酌む地酒かな　　仝

孤舟選者近詠

ヨットの帆ジーンズ店の星条旗　　舌戦の坩堝と化して蟬時雨
新しきたましひへ蛇衣を脱ぐ　　朝刊に畳み込まれし初涼かな
コスモスやをみなのノーはイエスかも

三、8月21日の夜、Eテレ「戦時のホトトギス」より不正確ですが抄出してみました。

――戦時中軍事郵便で届いた作品が多い由

「出征の夫にせめて朝風呂濃山吹」
「敵の山味方の山も夕焼けぬ」（中支・長沙）
「支那人のよそよそしさよ夕涼み」
「戦死報また出して読む牡丹雪「（竈馬）
「秋風や勝てよと母の女文字」（小いとど）
「椰子浜にマラリヤ防ぐ陣を張る」（マニラ）
「敵艦あはれ銀河の空へ燃ゆるとき」
「友ら死なせ銀漢の母港生還す」細木大三郎（「神威」軍医長）
「子に生きて又孫に生き杉を植う」

四、8月18日の日経に　年収ランキングが掲載され
（一）平均給与が高い企業　三菱商事、伊藤忠が2位、3位、物産が4位、住商が8位
（二）給与の増加率が大きい企業　物産10位6.4%
（三）給与の減少率が大きい企業に当社が7位▲17.9%

――――――経営者、社員各位の発奮を期待しております。

五、パラリンピックについて

○盛雄さんからTV観戦の感想
「パラリンピックで活躍の選手を見るとき、五体満足の自分が恥ずかしい。彼らの生命力の凄さに改めて感動を覚える。

○約二十八年前に頸椎2本骨折して手術2回・リハビリ入院⬇通院⬇職場復帰。東京都身体障害者スポーツセンター（国分寺）へ通った頃を想い出しました。プールで様々の障害のある人達と同じレーンで泳いでいたことや車椅子バスケット、テニスを見たことなど。色んな人達のおかげで今日あることひしひしと感じている次第です。（紀）

○9月5日の日刊スポーツのコラムで、視覚障害競泳で入賞した伊藤忠丸紅鉄鋼の石浦智美さんのことを書いております。競う相手が見えない為「周りを気にせず泳げるのがいい」と言ってこの勝負に集中できると云々。（紀）

○9月4日の日経ホビー欄のコラムに、日本財団は「パラサポWEB」というサイトを通じパラスポーツ関連の情報を広く収集発信する。「トップ企業が今なぜ東京パラリンピックに注目するのか?」と野村ホールディングス、ENEOS、三井不動産などの担当者にパラスポ支援で得たものを聞いている。集英社も2017年「パラスポ＋（プラス）！」というサイトを立ち上げている。担当者は心のバリアフ

リーが自然に身に付き本業に繋がる知見を得られる場合があり人生が豊かになるという。（紀）

○都の「学校連携観戦プロジェクト」は教育委員三人の中止勧告を知事は無視し、ごく一部の小中学生が観戦した。大した見識であると小生は評価します。（紀）

○9月9日の日経に「前例なき観戦対策苦心」という大見出しでパラのTV観戦、延べ42億人以上と報道しております。（紀）

令和三年九月九日

紀久男　記